

オンライン授業を行うにあたって注意していただきたいこと

法政大学ハラスメント相談室

この号の内容

1 オンライン授業を行うにあたって注意していただきたいこと

2 完了報告

4月22日第2回 オンライン授業に関するweb講習会

3 資料紹介

悩める教員のためのオンライン授業のコーナー「資料配信型」の授業編

【本ニュース発行主体】

HOSEI2020 オンライン授業支援特設チーム

(教学統括副学長のもとに2020年度のオンライン授業を支援する目的で設置)

【事務局】

総長室付教学企画室

本学の「ハラスメント相談室」より、「オンライン授業を行うにあたって注意していただきたいこと」として、以下の注意喚起の提供をいただきましたので、お知らせします。授業を行われるにあたり、ぜひ十分に確認をお願いします。今後、オンライン授業で教える・学ぶためのリテラシー、モラル、マナーなどについても、継続してお知らせしていく予定です。

1. インターネットにあがったものは、流出・拡散が可能であることを前提としてください。

・授業でZoomなどのビデオ会議システムを利用する場合、カメラにご配慮ください。スクリーン・ショットなどで不本意な静止画像を撮られ、流出・拡散されることを懸念する学生もおります。カメラ・オンを強要せずオフをデフォルトとする、オンを指定する場合はその必然性を学生に説明し事前に了解を求めるなど、適切な対応をお願いします。

・プロフィールなどの個人情報をネット上で共有する際にも十分ご注意ください。YouTubeなどの動画配信サービスで「限定公開」と設定しても、流出・拡散は起こり得ます。不安を感じる学生がいた場合は、別な方法をお考えいただくことで、無用な混乱やトラブルを回避できます。

2. 学生の通信環境は、経済状況や家庭の事情など、個人的な領域と密接に関係しています。

・パソコンの購入やwifi環境の整備を強要・強制することは避けてください。

・通信環境を把握するためのアンケートを実施した後、その結果を授業内で共有する場合、通信環境が整わない学生が特定されないようご配慮ください。

・通信環境が整わない学生が他の学生に責められないよう、ご配慮ください。
(例：他のゼミではZoomで授業をしているのに、〇〇のせいでうちはできなくなった、など)

3. その他『教職員のためのハラスメント防止ガイドブック』27ページにはメールについてのアドバイスが掲載されているのでご参照ください。

完了御礼

4月22日17時半～

第2回 オンライン授業に関する web 講習会

今回は「語学（英語）・少人数演習系科目のオンライン授業の準備事例」として、経営学部の石原紀子教授を講師として、ワークショップ型の講習会を開催しました。

当日は最大時140名ほどのご参加をいただき、予定時間の1時間半をたっぷり使い、石原先生が担当されているILAC英語科目やグローバル・オープン科目（演習系）での、学生の参加・協働学習

(communication, participation, collaboration) を重視した授業の組み立て例を紹介いただきました。

ワークショップでは、チャットでも縦横無尽の質疑応答が交わされ、後半には参加者全員のブレイクアウトセッションのミニ体験もあり、活気ある時間となりました。石原先生、ありがとうございました。

当日提供いただいたハンドアウト資料は、石原先生に許可いただき、以下から共有いただけます。

<https://drive.google.com/file/d/1x3lCnaQnyHY6ffhmvf8qHCny2uoQl2wh/view?usp=sharing>

録画映像も、第1回講習会とあわせて、あらためてご案内します。

以下は、事前に石原先生からお寄せいただいていた講座の狙いとコンテンツです。

多くの学生は授業を週10コマ以上履修しています。仮にそのほとんどが課題提出型のオンライン授業であるとすれば、学生の自主性や動機を高く保つことが難しくなっていく恐れがあります。

少人数授業は、オンラインであっても、学生と教員との「双方向」、そして学生同士の「多方向」のコミュニケーションやディスカッションを実現しやすい環境です。

この講習では、学習支援システムと大学がサポートするGoogle ツールのみで、学生の参加やインタラクティブな授業を深め、授業への帰属意識や協力関係を高める授業を目指します。

1. 学生との情報共有
2. 双方向・多方向性のあるアクティビティー
3. 全学に開かれたオンライン授業に関するオンライン・コミュニティーへの招待

ニュースと別に発行した下記資料を、さわりだけご紹介します。ぜひご覧ください。

悩める教員のためのオンライン授業のコツ「資料配信型」の授業編一

https://www.hosei.ac.jp/application/shibboleth_general/3215/8760/5467/1.pdf

1 このガイドの対象者
・オンライン授業には、「資料配信型」「オンデマンド配信型」「リアルタイム配信型」があります。このうち、学習支援システムを活用して「資料配信型」の授業を実施しようとしている教員の方が対象となります。

・学習支援システムは、通常、教室での授業の実施と併用することを前提にしています。ですから、「資料配信型」でオンライン授業を実施することの難しさは、教室での授業の補助として学習支援システムを活用するのではなく、学習支援システムのみで「授業」をつくらなくてはいけない点にあります。そのあたりを意識した授業デザインのコツをお伝えします。

(以下目次のみ)

- 2 1回の授業を組み立てる
- 3 当該の授業回のねらい（到達目標）を設定する
- 4 教材を配布する
- 5 学生とのやりとりをする
- 6 レポート課題の提示とフィードバック

本「オンライン授業のコツ」は今後学内の専任・兼任教員の皆さんから取り組みをお寄せいただき、シリーズ化できたらと考えています。あらためて応募のご案内を致しますので、学部を越えた授業づくりの学びの輪に、ぜひご参加ください。